

当院における CT コロノグラフィー検査の現状

JA 岐阜厚生連 西美濃厚生病院 放射線科 小森 竜太

【はじめに】当院において、CTcolonography (CTC) をはじめてから 2 年が経過した。その間、前処置、大腸拡張方法などの改善を試み、検査精度の向上を目指している。当院の CTC 検査導入から現在に至るまでの改善点と実際の検査方法および症例を報告する。

【使用機器】CT 装置 東芝社製 PLIME80 列 MDCT、炭酸ガス注入装置、メドラッド社製 RadiCO₂lon™、ワークステーション AZE 社製 Virtual Place 新

【検査手順】前処置では、食後にタギング用のガストログラフィンと共に水分を取って頂く。夏場は冬場と比べ脱水状態になりやすく、大腸内に残渣が残りやすい傾向にあるため、水分量は夏場 400ml、冬場 200ml としている。撮影体位は、最初に背臥位撮影、その後腹臥位撮影とする。画像処理では WS にてカラーマップのオパシティーカーブ調整により CT 値の高い部分は黄色に、低い部分はピンクに表示させる事でポリープと残渣の鑑別を行い読影時間の短縮に繋がっている。読影は仮想内視鏡像にて背臥位と腹臥位を同期させて比較読影を行い、クレンジングを行いながらブラインドエリアの無いようにしている。

【症例 1】76 歳男性、腹部不快にて CTC を実施。S 状結腸に全周性の 2 型病変を認め、その後の大腸内視鏡検査でも同様の病変が確認された。術後の病理診断は腺癌であった。

【症例 2】55 歳男性、S 状結腸に狭窄があり、大腸内視鏡検査不能にて CTC を実施。S 状結腸に狭窄を認めたが、狭窄部より口側と肛門側にポリープ所見が認められた。

【結語】当院の CTC 検査の現状を報告した。CTC 検査立ち上げから 2 年間で、様々な改善を重ねてきたが今後も更なる検査精度の向上を目指していきたい。